

第2回景観専門委員会で審議された 現況景観に関するご意見と対応について

1. 各委員からの意見の概要 1
2. 時間的に特徴的な変化をみせる要素の抽出 2

平成 18 年 5 月 17 日

1. 各委員からの意見の概要

第2回景観専門委員会において出された現況景観の分析等に関連する各委員からの意見とそれに対する対応状況を以下にまとめた。

委員からのご意見		区分	対応状況
1	『松江八景』、『宍道湖十景』など、今まで評価されてきた景観等を参考にして、情緒的な観点もとりにいれると、地域に根づく護岸整備につながっていくのではないか。	現況景観の特徴把握に関するご意見	時間的に特徴的な変化をみせる要素や情景的要素の抽出を新たに行った（本資料2）
2	常に見られる固定的な景観だけでなく、「朝霧に浮かぶシジミ舟」「遠くに見える大山」など、季節的なものを含め時折見られる風景への評価も行うべきである。このような要素も大橋川の景観では重要なのではないか。		
3	田山花袋（「山水小記」）や島崎藤村（「山陰土産」）らの文学作品の中にも大橋川沿川についての情景が描かれている可能性があるため、それらも参考になるのではないか。	景観形成における今後の方針検討に関するご意見	資料2「2-2.歴史的背景からみた検討」にて整理
4	橋南側は、元々は橋北側と匹敵するぐらい景観がよかった場所だと思われるが、埋め立てや活用されなくなったこと、その他の事情によって今のような状態になっている。ラフカディオ・ハーンも橋北側から橋南側を見た際の日本家屋の好印象を書き残している。橋南側については、今の景観を残すというよりも、昔どうであったかをふまえて今後の整備を考えた方がよい。		
5	近景、中景、遠景、借景の構成をふまえて、整備を考えた方がよい。大橋川で考えれば近景は橋のたもとや高欄、中景は対岸のまちなみ、遠景は川の背後に広がる田園や嵩山、借景は大山などにあたる。その構成をふまえた上で、ゾーン毎に大事にするものを整理すると無駄のない整備ができる。		
6	生活感への配慮、天候の変化の中での情景、歴史・文化といった古くからの経緯などを踏まえた上で考えていく必要がある。		資料2「2-2.歴史的背景からみた検討」、「2-3.現況景観の特徴からみた検討」にて整理

2. 時間的に特徴的な変化をみせる要素の抽出

(1) 景観要素の再確認

現況景観の把握におけるこれまでの整理において、観光・歴史、生活・文化、自然の観点から、以下のようなものが大橋川沿川の景観要素として抽出された（第2回景観専門委員会における検討事項）。

大橋川沿川の景観要素

	上流部	中流部	下流部
観光・歴史	<ul style="list-style-type: none"> ・神社・仏閣 ・各種観光施設 ・橋梁（大橋） ・老舗の旅館等 ・公園（源助公園等） ・宍道湖観光遊覧船の航行 ・ホーランエンヤ ・水郷祭 ・どう行列 	<ul style="list-style-type: none"> ・宍道湖観光遊覧船の航行 ・ホーランエンヤ 	<ul style="list-style-type: none"> ・多賀神社 ・手間天神社（塩楯島） ・古墳（手間古墳、石屋古墳、魚見塚古墳） ・「矢田の渡し」 ・大橋川周遊遊覧船 ・ホーランエンヤ
生活・文化	<ul style="list-style-type: none"> ・宍道湖大橋から大橋周辺の散策スポット ・宅地・商業施設の隣接 ・護岸（石積み、コンクリート） ・植栽（ヤナギ並木） ・沿川道路 ・シジミの漁場 ・松江市民レガッタ 	<ul style="list-style-type: none"> ・宅地・商業施設の隣接（一部区間） ・護岸（石積み、コンクリート） ・沿川道路 ・シジミの漁場 ・ゴズ（ハゼ）釣りスポット 	<ul style="list-style-type: none"> ・「矢田の渡し」 ・宅地・商業施設の隣接（一部区間） ・沿川道路 ・ゴズ（ハゼ）釣りスポット ・護岸（コンクリート）
自然	<ul style="list-style-type: none"> ・中の島の湿生植生 ・緩やかな水の流れと水面の近さ 	<ul style="list-style-type: none"> ・中の島、中州、松崎島の水田 ・中の島、中州、松崎島水際付近の湿生植生と水鳥等の生息地 ・緩やかな水の流れと水面の近さ ・嵩山、和久羅山からのびる稜線 	<ul style="list-style-type: none"> ・左岸側の水田 ・多賀神社の鎮守の森 ・湿生植生と水鳥等の生息地 ・緩やかな水の流れと水面の近さ

(2) 時間的に特徴的な変化をみせる要素の抽出

(1) で示された景観要素のうち、その見え方において時間的に特徴的な変化の現れる要素を抽出すると共に、『松江八景』、『宍道湖十景』などを参考に情景要素についても新たに抽出を行った。

景観要素		要素の特徴	視点場	写真		
季節の景	春の源助公園	・ 普段は落ち着いた佇まいをみせる公園が春の桜が満開になると華やかな印象をあたえる。	大橋			
	大橋川のボート (夏の景)	・ 大学や高校のボート部の練習や大会の場として利用する他、市民レガッタのイベントが開催されるなど、夏の大橋川で見られる景観要素である。	くにびき大橋 他			
	雪をいただく大山 (冬の景)	・ 大橋等を視点場として、はるか遠くに確認できるのが名峰 大山である。	大橋 他			
1日の景	・ 大橋川の夜明け ・ 大橋の朝霧 ・ 夕焼けの大橋	・ 明け方に宍道湖大橋などから下流方向を望むと、朝日に染まる川面と松江市街地が幻想的に映し出される。 ・ 朝霧に霞む大橋は幻想的で神秘的な印象をあたえる景観要素となる。 ・ 宍道湖に沈む夕日を背景にした大橋は幻想的な印象をあたえる景観要素となる。	・ 宍道湖大橋 他(夜明け) ・ 大橋～新大橋(ヤナギ並木他) (朝霧、夕焼け)			
	朝霧の中のシジミ漁	・ 松江の名産であるシジミは伝統的な鋤簾(じょれん)を使った方法で漁が行われており、朝もやの中で静かに営まれるその姿は、脈々と受け継がれてきた伝統、文化を感じる景観といえる。	大橋 他			
	大橋川の夜景	・ 市街地を貫流する大橋川の両岸では、夜になると、橋の照明、業務施設、飲食店の明かりが水面に映る。	宍道湖大橋、大橋 他			
	宍道湖の夕照	・ 大橋や宍道湖大橋から望む宍道湖に沈む夕日はしばしば絶景と称され、松江を代表する景観といわれ、観光、そして地域のシンボルともなっている。	宍道湖大橋、大橋 他			